

3 年 2 組 道徳科学習指導案

授業者 野原 とみ

1 主題構成表

主題名 個性を生かす

資料名 うれしく思えた日から

■ 内容項目 A 個性の伸長
自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。

■ 価値の分析

- ・個性の伸長は、自分のよさを生かすことであり、自分らしさを発揮しながら、調和のとれた自己を形成していくことである。そのために、自分の特徴に気付くことが必要である。この内容における特徴とは、他と比べて特に自分の目立つ所であり、長所だけでなく短所も含むものである。その両面を見い出すことで、努力によって短所を望ましい方向へ改め、長所を一層伸ばすことができる。日常的に長所と共に短所も意識しながら、自分の特徴を把握して個性の伸長を図る指導が必要である。
- ・中学年の児童は、行動範囲も広がり、友達や他者との出会いの中で様々な体験や交流を通して、多様な個性や生き方に触れる機会が増えてくる。
- ・指導に当たっては、友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切である。

■ 内容項目から見た児童の実態（意識）

- ・友達のよいこと見付けでは、「〇〇さんは、よくトイレのスリッパを揃えている。」「一人でいる子に声をかけている。」等、態度面だけでなく、「〇〇さんが優しいと思った。」「〇〇さんは、みんなのためによく働いているなあ。」等、相手の内面的な良さまで、目を向けることができる児童もいる。
- ・自己肯定感が低く、普段の生活で褒められたり、認められたりすることはあっても、それを自分の良さと感じていない。

（要因）

- ・児童が様々な生き方に触れ、自分の特徴に気付くことができる場が少ない。
- ・よいこと見付けにおいて、態度面の良さに目を向けているが、内面的な良さまで交流できていない。

■ 資料の分析
うれしく思えた日から

- ・この資料の主人公は、自分のことを「自分には良いところはない。」と考え、自分の良さに気付いていない。その自信のなさを児童に共感させる。そうすることで、自分の特徴に目を向けるきっかけにする。
- ・主人公が体育の時間にみんなに褒められたことをきっかけに、自分の長所を知る。長所を伸ばす努力をすることで、更にできることを増やしていき、「1年前のぼくじゃない。」ことを自覚する。主人公の体験を通して良い所に気づき、それを更に伸ばしていこうとする気持ちを考える。

■ ねらい

誰にでもその人なりの良さがあり、自分にも良い所があることに気づき、自分の良さを伸ばそうとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・「自分の良い所」を交流し、「良さのイメージ」を全体で共有する。
- ・自信のない主人公の気持ちを考え、自信のなさに共感させ、「もう1年前のぼくじゃない。」という言葉から良い所が伸びてきた主人公がどのような気持ちでいるのかを、以前の自信のない主人公と対比して話し合いをする。そして、自分の良さを自覚したことが自信につながり、それがまた良さを伸ばしていくやる気につながったことに気付かせる。
- ・隣の児童と、互いの良い所を伝え合うことで、気付かなかった自分の良い所を自覚する。
- ・道徳ノートに、自分の良い所をどのように伸ばしていきたいかを記入することで、長所を伸ばしていこうという態度を育てる。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問]「もう1年前のぼくじゃないと言っているぼくは、どんな気持ちか考えよう。」と問い、自信と意欲をもって前向きになった主人公の気持ちの変化を考えさせる。
- [学習形態]ペアで交流することで、気付いていなかった自分の良さを知り、伸ばしていこうとする気持ちを育てる。
- [言語活動]道徳ノートに記入することで、自分の良い所を更に、伸ばしていこうとする意欲を確かなものにする。

■ 道徳科と他の教育活動との関連（補充・**深化**・統合）

学活「運動会で頑張った子を紹介しよう」→道徳科「うれしく思えた日から」→児童会活動「ホカホカ キャンペーン」

運動会や日常生活の中で、頑張ったことを振り返ったり良さを見付けてもらったり、上級生の姿を見てあこがれをもったりすることで改めて自分の良い所を自覚し、自分の特徴について考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇自分の良い所について発表する。 ○自分の良い所は、どんなところですか。 ・縄跳びが上手なところ。 ・やさしいところかな。 ・良い所なんてないな。	・休み時間や給食・係活動など、日常生活を思い起こし、発表する。
展開 前 段	「自分の良い所について」について考えよう。 ◇資料「うれしく思えた日から」を読んで「自分の良さに気づき、それを伸ばしていく主人公」について話し合う。 ○「いい所なんて1つも無い。」と思っているぼくの気持ちを考えよう。 ・みんなと一緒に行動するけど、中心になれないなあ。 ・みんなは、楽々できるのに、ぼくは、何をやってもうまくできない。 ◎「1年前のぼくじゃない。」と言っているぼくは、どんな気持ちか考えよう。 ・前向きになれた。 ・できることが増えてうれしい。 ・みんなに認めてもらえて、うれしかった。 ・もっとできることを増やしたい。 ・大変でもやる気できる。 1年前との変化・・・ ・1年前より、自信が付いてきた。 ・やる気が出てきた。 ・いろいろなことができるようになった。 ・もっとできることを増やしたいと思うようになった。	・自分には良いところはないと思い、自分に自信がなく否定的な主人公の気持ちを感じ取らせる。 ・自分の良さに気付いてから1年たった後のぼくの様子を読んで、1年間でできるようになったことと主人公の心の変化を確認し、主人公と自分を重ね合わせて共感しながら考えさせる。 【深めの発問】 ★「もう1年前のぼくじゃない。」と言っているけど、1年前と今のぼくはどうちがうのだろう。 ・主人公が回りの人から良さを認めてもらうことで自分の良さが見つかり、自信が持てるようになったことを押さえる。
展開 後 段	◇隣の児童に良い所を伝え交流する。 ○隣の子の良い所を見つけて、教え合う。 ・〇〇さんは、いつもトイレのスリッパを揃えて、みんなのために働くことができる。だから、思いやりの心が素晴らしい。 ・〇〇さんは、係の仕事を毎日きちんとやっている。	・隣の友達の良い所を、カードに記入させておく。 ・隣の友達とペアで交流する。 ・自分の良い所を自覚している児童は、それを元にして話し合っても良いことを伝える。
終 末	◇道徳ノートに、自分の良い所やそれをどのように伸ばしていくのか記入し、長所を伸ばしていこうとする意欲を高める。 ○自分の良い所をどのようにして伸ばすとよいか考えよう。 ・先生に褒めてもらいたくてトイレのスリッパを揃えていたけど、自分には〇〇さんに思いやりの心があると教えてもらった。だから、これからも、学年文庫の本を整頓したり、机を揃えたりしたい。 ・黒板係の仕事を自分の仕事だからやっていたけど、みんながよく見えるようにもっときれいに消したい。忘れないように頑張ろう。	・書き方が分かるように、例を示す。 ・自分の良さを見付けたり友達から教えてもらったりしてうれしかった気持ちを書いて、長所を伸ばしていこうという態度を育てる。 〈変容の見届け〉 ・自分の長所を自覚して、自分にできることを考えて前向きに頑張ろうという気持ちをもっている。

3年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
A 個性の伸長	国語	すがたをかえる大豆		
	算数	あまりのあるわり算		
	学活	運動会で頑張った子を紹介しよう		
	道徳	うれしく思えた日から		
	学活	一人一人を大切に		
	児童会	ホカホカキャンペーン		
	日常	あいさつ		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除		
	日常	給食		
	日常	廊下歩行		
	日常	係の仕事		
	日常	よいこと見つけ		
	日常	トイレのスリッパ		
	家庭	ボランティア		

<2学期所見>

評価のしかた 視点 A 個性の伸長

道徳の授業
 ・ぼくの気持ちを考え、発表することができたか。
 ・自分の生活を振り返り、自分の良さに気づき、更に良い所を伸ばそうと意識して生活できたか。

日常生活（廊下歩行、登下校、掃除など）
 ・友達の良い所を見付けたり、自分の良さを伸ばそうと、授業中や休み時間を過ごしているか。